

■学校経営のポイント

新学習指導要領への対応のポイント

小島 宏

新年度が始まって早くも3カ月目を迎え、教育活動も順調に滑り出しているであろう。そろそろ新学習指導要領の趣旨徹底に本格的に取り組む時期である。その進め方や内容などについて整理する。

趣旨徹底の校長のスタンス

まず、校長自身が、中教審答申や新学習指導要領を精読して理解する必要がある。しかし、それを丁寧に説明することで、教員を受け身にしてはならない。そこで、教員を主役にした校内研修を設定し、校長は教頭とともに指導助言に徹することである。

校内研修の計画

教務部や研究部に指導・指示して、新学習指導要領の趣旨徹底の研修会を企画・立案させる。

理解しておくべき主な項目・内容を選定し、それらを全教員で分担し、各自が学習してレポートにまとめ、それを提案して討論する形が一般的である。

通常の教育活動と学校運営を行っている中での研修であることから、「短時間の研修会」を計画的に組み込み、効率的に行うことがポイントになる。

趣旨徹底の内容と参考文献

研修の対象は、新学習指導要領の総則、各教科、総合的な学習の時間、特別活動などである。

また、ESDやキャリア教育、プログラミング教育、各教科等の見方・考え方、いじめ・不登校など教育諸課題についても取りあげる必要がある。

その際、中教審答申や文科省「学習指導要領等改訂のポイント」「学習指導要領」「同解説〇〇編(8月前後に公表か)」を活用すると理解しやすく、要点を押さえたレポートの作成に役立つ。

社会に開かれた教育課程

これまでの教育課程を、「社会に開かれた教育課

程」の3重点や「カリキュラム・マネジメント」の3側面などの視点から見直し、具体的に何をどう変えていけばよいのか検討し、改善する。

その際、学校の教育目標の見直し、各種全体計画の検討、教育課程の編成・実施の過程における保護者・地域との協力なども視野に置くようにする。

年間指導計画の作成

従来の年間指導計画は、総合的な学習の時間以外は、各教科等の特性を中心に作成することが一般的であった。今後は、合科的に、並行して、あるいは教科横断的・関連的な扱いを考慮する必要がある。

特に、地域の人的・物的資源(地域は先生、地域は学習材、地域は教室、地域は世界の入り口)を活用した教育活動(学習活動)が展開できるよう工夫する。

単元の指導計画・評価計画のモデル

指導計画・評価計画のモデルを作成し、それを各教科等の特性に応じてアレンジしていく。

その際、限られた人数と時間で作成することから、教育委員会の指導資料や教科書の参考事例などを下敷きにして、それを自校流に工夫改善していくことが実際的である。教科横断的・関連的な扱いや、地域の人的・物的資源の活用などにも配慮する。

学習評価の在り方

総則第3の2を参照し、よい点や進歩の状況を積極的に評価すること(肯定的な評価)、学習の意義や価値の実感、指導の改善や学習意欲の向上に資するようにする。パフォーマンス評価やポートフォリオの活用などにも視野を広げたい。なお、本年度内に出ると予測される文科省「児童生徒指導要録の学習評価(通知)」で、基本を十分に理解したい。

(こじま・ひろし=元公立小学校長・(公財)豊島修練会理事長)

●指導要領改訂のポイントが、この1冊でよくわかる! 《最新刊》

よくわかる 小学校・中学校新学習指導要領全文と要点解説

【編集】奈須正裕 B5判・250頁/定価(本体2,700円)+税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

